

日本株を取り巻く環境は今後改善へ



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① コロナ鎮静化は日本株に追い風へ

足元の日本株は方向感に欠ける動きとなっていますが、世界を揺るがしたコロナショックから1年半以上経過し、現在の株式相場は期待先行相場から実体を見極める相場に、すでに移行したとみられます。

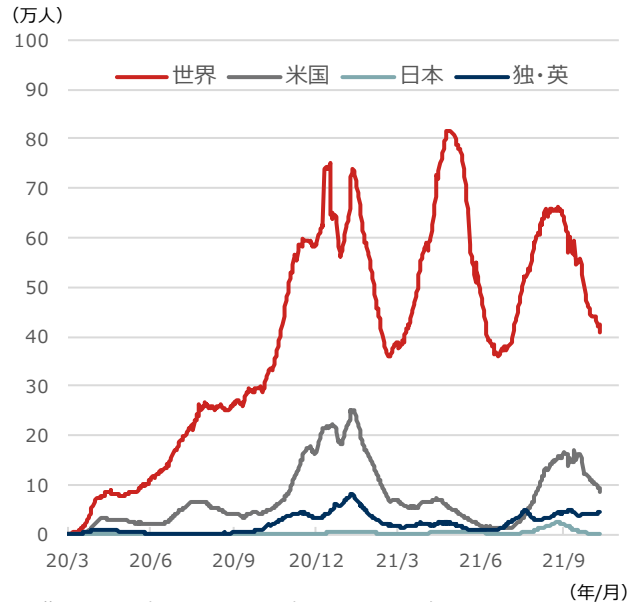
世界の新型コロナウイルス新規感染者数は、ワクチン接種が進んだこともあり、各国で行動制限が解除された後も減少傾向にあります（右上図）。コロナの重症化を防ぐ経口薬の実用化も迫るなど、世界がコロナを克服しつつある現状を踏まえると、世界経済の成長軌道は、しっかりしてくると想定されます。日本株は欧米株と比べて自動車や、機械、電子部品といった景気敏感業種の比率が高い特徴があり、経済活動再開の恩恵が期待されます。

ポイント② 原油高を巡る懸念も後退へ

足元の原油価格上昇は、原油の純輸入国である日本にとって、コスト増を通じ企業業績の下押し圧力につながります。ただ、世界の原油需給の引き締めは今後徐々に和らいでいくとみられ（右下図）、原油価格上昇に歯止めがかかると想定されることは支援材料といえます。加えて、現在の米ドル円レートは1米ドル＝113円台と今期の想定為替レート（1米ドル＝107円64銭、日銀短観9月調査）を上回る円安が進んでおり、輸出企業の業績を幾分押し上げることも期待できます。

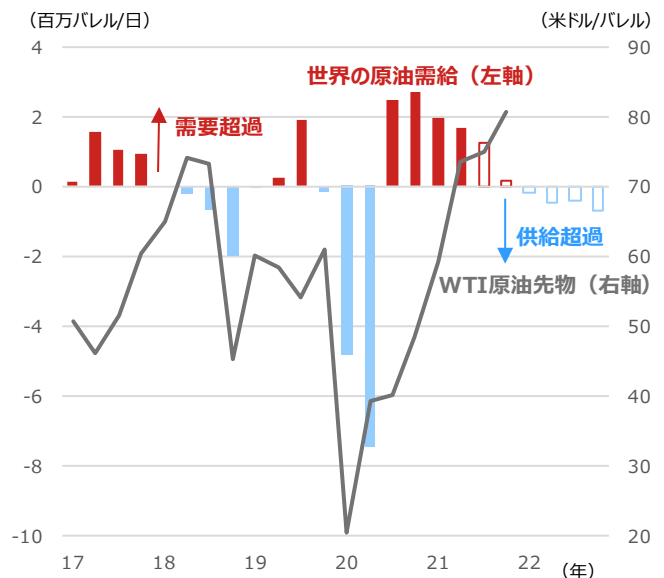
米国では来年以降、過度なインフレが鎮静化すると見込まれており、本格的な利上げ局面はまだ先とみられるほか、中国の電力問題も当局の指示により、今後改善すると想定されるなど、世界の投資環境は決して悪くはありません。日々のニュースに一喜一憂せず、長期視点に立って、日本株は押し目買いスタンスで臨むことがポイントといえそうです。

世界の新型コロナウイルス新規感染者数(7日移動平均)



期間：2020年3月1日～2021年10月11日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

世界の原油需給とWTI原油先物価格



期間：(世界の原油需給) 2017年第1四半期～2022年第4四半期、四半期
(WTI原油先物) 2017年3月末～2021年10月12日、四半期
・世界の原油需給のグラフ白抜き部分(2021年第3四半期～2022年第4四半期)はEIA(米エネルギー情報局)予想
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。